

AireOSワイヤレスLANコントローラ(WLC)からログとデバッグを収集するためのガイド

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[収集するログ](#)

[WLCの問題](#)

[WLCのクラッシュ](#)

[クライアント接続の問題](#)

概要

このドキュメントでは、AireOSワイヤレスLANコントローラ(WLC)から重要なデバッグまたはshowコマンドを収集する手順について説明します。

前提条件

要件

次のテクノロジーに関する知識があることが推奨されます。

- ワイヤレス LAN コントローラ
- Telnet/SSH/コンソールクライアント

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のハードウェアおよびソフトウェアのバージョンに基づいています。

- AireOS WLCバージョン8.0.140.0以降
- WLCモデル2504/5508/5520/7500/8500/8540/WISM

収集するログ

WLCの問題

1. 問題の詳細と正確な説明を文書化します。
2. **Config paging disable** : このコマンドはページングを無効にするので、改ページなしでファイルをログに記録できます。
3. **Show run-config**: このコマンドは、WLCの設定、有効な機能、すべてのAPのRF統計情報に

関して豊富なデータを提供します。これはTAC（または）show run-config no-apからの最も多くの出力です。このコマンドはAP情報をスキップし、APの数が多すぎてAPに関連する問題が疑われない場合に使用できます

4. **Show traplog、show msglog**：進行中の重大な問題を監視するためのWLCからのログ。WLC上のコンポーネント固有の問題については、[show/debug](#)コマンドも収集できます。

または、AireOS 8.3以降では、WLCから[Diagnostic Support Bundleをアップロードして、TACに必要なデータをすべて1回で提供](#)することもできます。

WLCのクラッシュ

1. **Show tech-support**：この出力は、すべてのWLCのクラッシュに重要です。crashfileのTFTP転送が推奨され、テクニカルサポートが切り詰められた場合に備えて、完全なcrashfileが作成されます。コマンド：**transfer upload datatype crashfile**
2. **Show coredump summary**：コアダンプファイルが表示された場合は、同じファイルを収集してアップロードしてください。コマンド：アップロードデータタイプのコアダンプを転送します。CLI/GUIのアップロードを使用してTFTPserverにファイルを転送する手順の詳細については、次のページを参照してください：[upload](#)

クライアント接続の問題

クライアント接続の問題については、次の情報を収集してください。

1. 問題の詳細と正確な説明を文書化します。
2. **show run-config**: 「WLCの問題」セクションに記載されているように、このコマンドを収集します。このコマンドは、WLCの設定、有効な機能、すべてのAPのRF統計情報に関する豊富なデータを提供します。
3. 問題のあるWLANの名前。
4. クライアントモデル（ハードウェア、ソフトウェア、OS、クライアントアダプタハードウェア、ドライババージョン）
5. 問題のあるクライアントの数。
6. 問題が常に再現可能な場合は、**Debug client <mac>**を収集します。それ以外の場合は、セッションをログに記録し、**Debug client <mac1> <mac2>**を収集し、問題のタイムスタンプをメモします。**config session timeout 0, config serial timeout 0**：セッションがタイムアウトにならないことを確認します。デバッグを無効にするには、**debug disable-all**を実行します
7. 新しい設定か既存の設定か？
8. サイト調査は完了しましたか。「はい」の場合は、レポートも添付します。
9. データ収集の詳細については、次のサイトを参照してください。